

東京国際空港再拡張事業に係る環境監視委員会 第2回水環境WG 議事概要

【開催日時】 平成20年 2月 21日（木） 15:00～16:30

【議題】 ・東京国際空港再拡張事業に係る環境監視結果について
・その他

【出席者】 小倉座長、清水委員、古川委員、神奈川県、千葉県、東京空港整備事務所、東京航空局、財団法人港湾空間高度化環境研究センター

【開催場所】 東京空港整備事務所 分庁舎 5階A会議室

【資料】 資料-1 環境監視結果〈水環境〉の概要について
資料-2 東京国際空港再拡張事業に係る環境監視調査結果報告〈水環境〉
資料-3 今後の予定について
参考資料 監視調査の概要フロー

1. 開会挨拶

2. 座長挨拶

3. 議 事

3-1 東京国際空港再拡張事業に係る環境監視結果について

資料-1～2、参考資料、ビデオ上映にて、工事の進捗状況、水環境の監視結果報告について説明を行った。

委員：昨年9月の出水について、こういったイベントが長期的な影響を語る上で何か大きな影響をフットプリントとして残しているとすれば、ここでこういう影響が起きましたということに記載しておく必要がある。今回は短期的には非常に大きなイベントであったが、底質分布を見ると台風の前で変わっていないという感触を持っているが、そのような認識で良いか。

事務局：台風による土砂の堆積は確認されたものの、夏季と秋季の底質調査結果を比較確認した限りにおいては、大きな変化は確認されておらず、台風による影響は少ないと認識している。

委員：資料-2-1の5ページにSSと現場で測った濁度の相関式、相関図があるが、これはどこかのタイミングで見直すことになっているのか。

東京国際空港再拡張事業に係る環境監視委員会 第2回水環境WG 議事概要

事務局 : この相関図は、現場の土を採取し、攪拌させて強制的に濁り状態を作成しデータをプロットしているものであり、実際の監視データでは、濁度が50以下の値がほとんどで、相関をとると0.8程度の値になる。ただ、換算式は安全側(換算係数:1.2)の評価となっているので、現段階では当初からの換算係数で整理していきたいと考えている。多摩川の出水時の値については高い値は出ているが、その場合においても換算係数が1.2よりも低くなることから、現状での見直しは行わない予定です。今後、変更する必要が出てくれば、検討させて頂きたい。

委員 : 資料-2-1の90ページ以降の干潟底質の図について、もう少しわかりやすく、工夫すること。

事務局 : 資料の整理の仕方、見せ方を工夫する。

3-2 その他

資料-3にて、今後の予定についての説明を行った。

参考資料(監視調査の概要フロー)についての説明を行った。

事務局 : 工事以外の影響の可能性と、工事による影響の可能性から、現地状況を総合的に判断して、不適合の場合においても、工事以外の要因であると判断される場合においては、基本調査へ向かうフローとしたい。また、適合の場合でも、不適合に近い値が観測された場合においては、現地の状況から総合的に検討を行うこととしたい。

委員 : 工事の要因であるという判断は、一番最後の環境監視委員会の緊急開催で決まるのか。このフローを見ると、どこまで行っても工事の影響であるという断言はできないように見えるがどうなのか。

事務局 : 工事の影響であると断定するには、現地状況を総合的に判断することが必要なことから、2日間程度経過を確認し、3日目以降については、環境保全対策の準備・実施を並行して進めながら、濁り状況が継続する場合、かつ周辺の気象・海象条件で工事以外の要因がほぼ考えられないという判断ができれば、4日目以降で断定ということになる。

東京国際空港再拡張事業に係る環境監視委員会 第2回水環境WG 議 事 概 要

事務局 : 本日のご意見ご指摘を踏まえ、東京都の条例に基づいた形での報告書の取りまとめを行います。報告書の公開前には、委員の方へご相談に伺いたいと考えておりますので、よろしくお願ひ致します。

以 上 (終了)